

## 令和2年度 学校関係者評価 報告

学校法人尽誠学園  
香川看護専門学校

令和 3 年 2 月 15 日

学校長 横山 重子  
学校関係者評価委員長 清水 裕子

### 1. 学校関係者評価の概要と実施状況

#### 1) 学校関係者評価の目的

香川看護専門学校の教育目標とその達成に向けた取り組みについて、教育組織としての運営のあり方や教育活動の実施状況を客観的に評価し、改善の方向を提示し、看護師養成所としての教育水準の維持、向上および学校運営の活性化を図ることを目的とする。

#### 2) 学校関係者評価委員(敬称略、順不同)

委員長 清水 裕子(大学教授)  
委員 松下 文夫(前学校関係者評価委員長)  
藤原久己子(実習施設)  
三谷 尚子(実習施設)  
志賀 紀之(高等学校)  
福岡 章子(看護職)

3) 事務局

学校長	横山 重子
副校長	大柳 薫
総務部長	横山 佳典
教務部長	谷川 香代
第1看護学科長	高橋 由恵
第2看護学科長	後藤佳代子

#### 4) 学校関係者評価委員会

日時 令和 3 年 1 月 20 日(水) ~2月 15 日(月)

#### 5) 評価方法

評価委員に、学校自己評価報告書および自己評価の根拠となる資料を提示し、令和 2 年 2 月 15 日(月)までに持ち回り評価の意見を委員長が整理、集約し、評価報告書を作成した。

## 2. 評価結果

### A：学校の現況および特徴

前年度と概ね同様である。

教員の学会参加数が増え、尚且つ口演での発表が2題行われたことは質の向上の観点から高く評価できる。裾野拡大のためには、学内に研究指導者を招き、研究者としてのマインド形成を醸成することも期待される。

入学者の確保困難について、特に第2看護学科は、少子化に加えて看護大学への進学指向が高く、准看護師から進学コースを経て看護師になるケースが少なくなっている現状では、今後も充足を目指すのは困難ではないかと懸念される。当分の間、学校訪問、オープンキャンパスなどで対応しつつ、香川県医療計画の方針を踏まえて、将来的に定員の再検討が必要になると予測される。

今後の取り組みとして、県内の人口動態と看護人材への供給課題を考慮しつつ効果的な学校運営を期待する。

### B：教育活動評価

今年度評価された項目の自己評価得点は、1-3評定段階において、2.5~3.0であるが評価得点は3が妥当と考える。個々には次の通り、評価委員がコメントを付与した。

#### I. 教育理念について

今年度は評価対象ではない。

#### II. 教育目的・目標について

今年度は評価対象ではない。

#### III. 教育課程経営について

今年度は評価対象ではない。

#### IV. 教授・学習・評価課程について

##### ○第1看護学科

1. 「シラバスの提示や学習への指導は、学生への学習の動機づけと支援になっている」の0.3ポイント上昇は指導者の努力の表れと評価できる。

今後、課題になっている学校関係者評価の内容をシラバスに反映する際に、これまで積み重ねてきた実績や生徒の実態等をよく鑑みて取捨選択し反映させることを期待する。

2. 第1看護学科、第2看護学科ともに、前年度比で評価に変化があったもの(社会人基礎力、授業内容の発展性・明確性など)については根拠となる理由を簡潔に挙げるとわかりやすく、課題解決の具体策が明確化できると期待される。たとえば低下したと考えられる理由、上昇したことに対して何が功を奏したのか、などである。

3. 担当した授業案を全教員間で共有できるような方法の確立、また、個々の授業案の指導に取り組むことが望まれる。授業評価の結果については教員の研修計画に反映させる工夫が望まれる。

#### ○第2看護学科

1. 「講義要項の活用」の0.7ポイント上昇は、生徒が自学自習を進められる環境が整っていることの表れといえる。他に課題も多いようだが、この項目の高い評価をこれからも維持できるよう期待する。

2. 担当した授業案を全教員間で共有できるような方法の確立が望まれる。

教員個々の評価結果を研修計画に関連付けることで、4「授業内容間の重複や整合性・発展性などが明確になってくる」、8「効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている」の評定が2から3への上昇が期待できる。

3. 8「効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている」は、指導体制の明文化が出来ていないことで評価が2と捉えた。

准看護師資格を持つ学生の積み重ね教育においては、教員間で学生が持つ課題の情報を共有し、指導方法・内容を明確化する必要があると考える。常に教育目的・目標に向かっていることを教員が理解していることが必要と考える。

### VI. 入学

#### ○第1看護学科

1. 高校からの推薦が減少しているとあるが、オープンキャンパスへの参加人数は微々たるものであるが増えている。オープンキャンパスでは奨学金説明ブースを訪れる参加者は60%以上である。保護者や学生が第一志望校として選択している特徴は何なのか、検討する必要がある。

2. 毎年、社会人が約50%入学している。社会人入学生の確保が今後も継続できるのかPR活動の拡大について必要性がないか検討を期待する。

#### ○第2看護学科

1. 定員の確保が難しいとの事であるが、第1看護学科と同じで、「この学校のこの学科にきたから〇〇できる」、「◇◇できるから(があるから)この学校のこの学科に行きたい」と思える特色を期待する。

2. 将来を見据えたカリキュラム改正の准看護師教育内容の変容を理解し、看護教員と積み重ねとなる教育内容や課題について話し合いが出来るような関係を形成されることが望まれる。

### VII. 卒業・就業・進学

#### ○第1看護学科

1. 国家試験合格率97%は十分であるとは思いますが、親の立場から考えると「この学校に行けば必ず看護師の資格を取って就職できる」との評価のためには、資格試験であることから100%を期待される。

2. 高校での面接指導において、国家試験の合格率が高い学校はそれだけ指導が行きとどいていくという表現が、しばしば聞かれる。非常に高いハードルとなるが合格率100%を目指してほしい。

#### ○第2看護学科

1. 第1看護学科と同じで合格率100%を目指してほしい。

「地域医療を支える看護師を育てる」ことが本学の特徴といえるため、看護師学校養成所の香川県内への就職率の平均が72%であることを考えると、貴校の香川県内の就職率84%は香川県内への医療者の供給では十分貢献している。

2. 新人看護師を受け入れる施設として、技術経験の卒業時到達レベルⅠ・Ⅱ・Ⅲに対して50%以上の未到達項目が17項目あるのが懸念される。学内学習で到達度を引き上げる工夫をしているようだが、実習施設に情報提供をすると何かしらの支援やサポートができる可能性も期待できる。関連施設及び就職先への情報提供をすることで、課題を継続し、連携することを期待する。

#### VIII. 地域社会・国際交流

県内就職率が高く、県内看護職員の重要な担い手となっており、地域貢献がなされている。

#### IX. 研究

評価対象外。

#### 付記

1. 学生便覧について

学生相談やハラスメント相談が開設されており、学生の生活面への配慮がうかがわれる。ただし、いつ、どのような方法で利用できるのかの具体的な方法が明示されていない。評価者を介さない相談が可能となるよう学生の相談体制が明示されることの望ましい。

以上